



校長通信

令和6年度22号 令和7年3月31日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

《学び舎を後に、新たな道へ》

5年間、この河北中学校でお世話になりましたが、本日、無事？退職の運びとなりました。ありがとうございました。思い起こせば5年前、河北中学校に赴任してきたときは、コロナ禍の真っ最中。なんとか入学式は実施できたものの、オンラインを使った家庭学習から学習活動がスタートし、徐々に、分散登校、通常登校と学校生活の時間を増やしました。夏季休業前に、マスクを必修とし、通常授業をすることができるようになりました。しかし、コロナウィルス感染症拡大を防ぐため、密になる行動は避け、食事も黙食と、規制が多く、生徒には不自由をかけました。

入学式では、前年度、私は校区内の小学校である湊小学校の校長を務めていたので、卒業式で、中学校でも頑張ってくださいと、巣立っていく卒業生に激励の声をかけた翌月の河北中学校の入学式で、入学おめでとうと声をかけた時、湊小学校から入学してきた子供たちは、驚きの表情を見せていたことを思い出します。

この5年間で、校長通信、今号を含めて、139号発刊しました。学校の様子や私自身の思いや考え、失敗談を、自由に書かせていただきました。学校のHPにも掲載したので、様々な方々から、楽しく読んでいますと声をかけていただくこともありました。有り難いことです。

河北中では5年間ですが、私の教職生活全体を振り返ると、合計37年間、学校教育に携わってきました。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、教育委員会、大学非常勤講師と学校教育に係る様々なキャリアを積みさせていただきました。多くの児童・生徒と関わり、ふれあい、私の知識・技能を教えてきましたが、子供達からも様々な事を学ぶことができました。先輩・後輩・同僚教師と助け合い、様々な困難を乗り越えて来ました。保護者や地域の方々から協力もたくさんいただきました。本当にありがとうございました。

最後に、私は、いつも子供たちに、「残心」という言葉を用いて、事が済んでも気を抜かず、しっかり振り返り、その経験を次に活かすよう促してきました。3月31日付けで退職しますが、4月2日付けで、海南高校教員として着任し、英語を指導します。これまでの経験を活かし、高校生に英語を教えます。これが、私の「残心」です。がんばります。

河北中学校の今後の益々の発展と、関係の皆様のご健康・ご多幸を祈念いたしまして、校長通信の結びといたします。ありがとうございました。

